

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校 北名古屋市立師勝小学校（※正式名称を記載）

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒481-0003

愛知県北名古屋市能田105番地

E-mail shikatsu-e@kitanagoya.ed.jp

Website <http://www.cnt.kitanagoya.ed.jp/shikatsu-e/>

幼児児童生徒数 男子 301名 女子 295名 合計 596名

幼児・児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校の国際理解教育の目標である「友達を互いに人間として尊重し、思いやることのできる子」「自国や他国の文化のよさや違いが理解できる子」「互いに助け合い、だれとでも分け隔てなく協力し、国際交流に参加できる子」の育成を目指して、総合的な学習の時間と児童会活動に取り組んだ。

1 児童会活動

（人権集会、アルミ缶エコキャップ、赤い羽根共同募金、一円玉募金）

児童会では、常時活動として毎週火曜日にアルミ缶・エコキャップ回収を行った。今回は約89,870個のエコキャップを回収することができ、105人分のワクチンに交換することができた。また、募金活動として、1円玉募金と赤い羽根共同募金を行った。人権週間に合わせ、児童会執行部が「人権集会」を開き、全校児童が参加した。いじめをなくすためにはどうしたらよいかを考え、劇で「友達や自分のよさを認めよう」と呼びかけた。北名古屋市いじめ子どもサミットに児童会会長、副会長が参加し、他校と情報交換を行った。

2 総合的な学習の時間の活動

① 5年生の取組「ワールド集会」「学習発表会」

5年生の児童は、外国の文化について調べたり考えたりするために、JICA中部から講師を招き、ワールド集会を開催した。青年海外協力隊として活動した経験のある講師から、アフリカのザンビアの事例を中心に、発展途上国の小学校の様子や、子どもたちの生活について話を聞いた。この学習を通して、厳しい環境の中でも、目を輝かせ、いきいきと生活する現地の子どもたちの姿に気付いたり、1円玉募金やエコキャップ回収の活動に、これまで以上に積極的に参加しようと考えたりする児童がいた。

学習発表会では、中国、ロシア、ブラジル、カンボジア、イラク、ケニアの6か国について、グループで調べたことを発表した。それぞれの国が抱える、教育、生活、環境などの課題を、劇や紙芝居、ニュース番組形式など、さまざまな方法で発表した。世界の国々が抱える課題について、自分たちにできることは何かを考えるきっかけになった。

② 6年生の取組「地域の伝統文化について学ぶ活動」

6年生の児童は、「地域についての理解を深めることが、国際理解の基本となる」という考えから、昨年度から始めた150年以上前から地域に受け継がれている「能田徳若万歳」についての学習を行った。能田徳若万歳保存会や公民館の方々の協力を得て、体験学習や調べ学習を進めた。この学習を通して、児童の中に、「伝統を絶やすことなく、次世代につなげていきたい」という思いが芽生えた。本年度は、能田徳若万歳だけでなく、同じく地域の伝統芸能である「六ツ師神楽ばやし」や「高田寺白山社神楽太鼓」なども取り上げた。10月には、愛知県ユネスコスクール交流会で、これまでの学習の成果を発表し、多くの人に地域の伝統芸能について伝えることができた。



写真① 赤い羽根共同募金



写真② 5年生学習発表会



写真③ 地域の伝統文化について学ぶ活動



写真④ 愛知県ユネスコスクール交流会

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校の国際理解教育の目標である「友達を互いに人間として尊重し、思いやることのできる子」「自国や他国の文化のよさや違いが理解できる子」「互いに助け合い、だれとでも分け隔てなく協力し、国際交流に参加できる子」の育成を目指して、総合的な学習の時間と児童会活動に取り組んだ。年度末に来年度の計画を提案し、全職員共通理解のもと指導を行った。

①総合的な学習の時間

3年生 「えっへん！これぞわがまちじまん」「北名古屋市の昔」

5年生 「ひとつの世界、様々な国々」

6年生 「地域の伝統文化に触れよう」

「ぼくらは歴史たんけん隊—古都の歴史に触れよう—」

②児童会活動

アルミ缶・エコキャップ回収(5月～3月)

一円玉募金(9月)

人権集会(11月)

赤い羽根共同募金(11月)

北名古屋市いじめ子どもサミットに参加(12月)

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

年度始めに、総合的な学習の時間や児童会活動等の年間計画を立て、職員会で提案し、全職員が共通理解のもと、指導に当たっている。

学習発表会の発表内容や発表形式を記録しておき、次年度の発表の参考になるようにしている。また、他学年の発表も職員は把握し、系統的に指導ができるように努めている。

高学年の代表児童が能田徳若万歳を、学習発表会や全校集会で演じたり、映像を見せたりして紹介している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

地域の伝統文化を継承していくために、保存会の方と連携をとりながら、本校の児童が土曜教室に参加している。地域の伝統文化を守り、継承していくためには、小中学生がもっと伝統芸能に親しみ、地域のことを知る必要がある。もっと多くの児童が自分たちの暮らす町の伝統文化に興味関心をもてるように、活動を広げていく必要がある。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ESD 推進事業の一環で、公民館と連携し、「師勝小学校が避難所になる！」というテーマで防災体験学習を行った。被災時を想定して、体育館に避難所が開設され、その中で、防災に関するワークショップを体験したり、備蓄品の展示を見学したりした。当日は、ボランティアの方々、市役所の職員、本校の児童、保護者、職員が参加し、防災時の対策について理解を深めることができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など）(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

JICA 中部から講師を招き、青年海外協力隊として活動した経験のある講師から、アフリカのザンビアの事例を中心に、発展途上国の小学校の様子や、子どもたちの生活について話を聞いた。

防災体験学習の際には、公民館の方やボランティアの方々に協力いただき、児童、保護者、地域の方、職員と一緒に活動し、防災についての理解を深めることができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

愛知県ユネスコスクール交流会で、これまでの学習の成果を発表し、多くの方に地域の伝統芸能「能田徳若万歳」について伝えることができた。他地区の学校の取組も知ることができ、本校の児童も教員もよい刺激を受けた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）(200字程度) ※チェック事項 2-5 に対応

公民館と連携し、「師勝小学校が避難所になる！」というテーマで防災体験学習を行った。地域の方と協力して活動することができた。

愛知県ユネスコスクール交流会で、児童会が師勝小学校の取組を他地域の方々に発表した。師勝の伝統芸能「能田徳若万歳」についてPRすることができた。また、他地域の取組を知り、知識を広げることができた。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

本校の国際理解の目標である「友達を互いに人間として尊重し、思いやることのできる子」「自国や他国の文化のよさや違いが理解できる子」「互いに助け合い、だれとでも分け隔てなく協力し、国際交流に参加できる子」の育成を目指して、総合的な学習の時間と児童会活動に取り組む。

①総合的な学習の時間

3年生 「えっへん！これぞわがまちじまん」「外国の文化にふれよう」

4年生 「外国の文化にふれよう」

5年生 「ひとつの世界、様々な国々」

6年生 「日本や地域の伝統文化に触れよう」

「外国の言語について学ぼう」

②児童会活動

アルミ缶・エコキャップ回収(5月~3月)

一円玉募金(9月)

赤い羽根共同募金(11月)

人権集会(12月)

北名古屋市いじめ子どもサミットに参加(12月)